

4年生への 応援メッセージ

4年生担任 **松清 由美子**
担任補佐 **福浦 善友**

大学生として最後の夏が終わり、この「はなみずき」を皆さんが手にする頃は、卒業研究や国家試験に向けて頑張っていることと思います。

国家試験まで残り4か月、一人きりで勉強しないこと、疑問はその都度解決すること、皆さんは一人ではないことを忘れないで下さい。努力は実力を生み、実力は自信を生み、自信は合格につながっています。夢の実現に向けて、残りの大学生活を悔いなく過ごして下さい。応援しています!!



担任補佐 福浦 善友先生 担任 松清 由美子先生

新任教職員の紹介



老年看護学 助教 **新 裕紀子**

ご高齢の患者さんやそのご家族の方々に寄り添いながらその人らしい人生を送れるための看護について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



左から土井 歌織助手、新 裕紀子助教

地域看護学 助手 **土井 歌織**

大学病院と地域包括支援センターで勤務しました。これまでの経験をみなさんと共有し、一緒に学びを深めていけたらと思います。よろしくお祈りします。

看護学科通信

はなみずき 第54号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミテイル地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

後援会会長挨拶

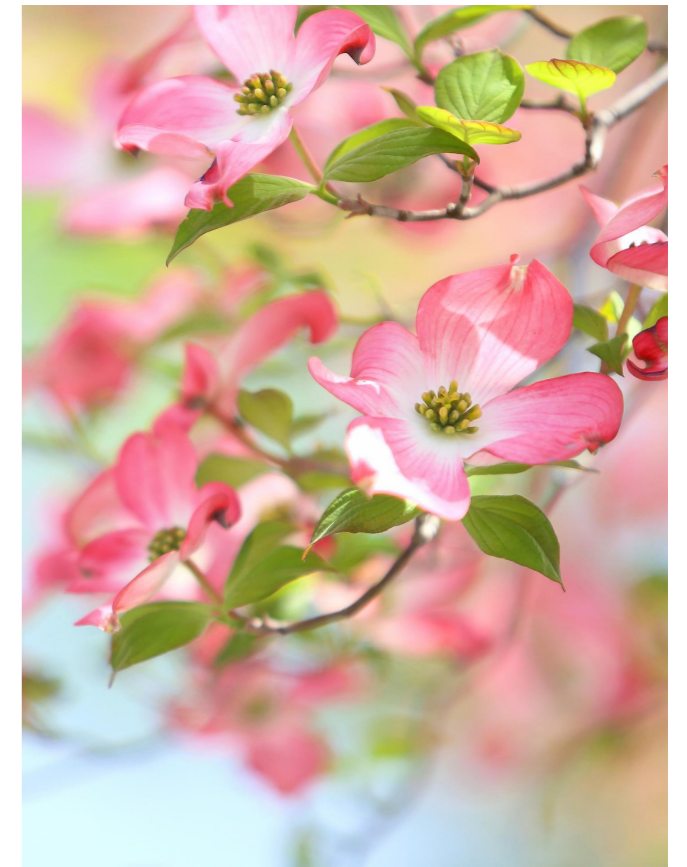
後援会会長 **荒巻 佐織**

新入生、在校生の皆さん、入学や新生活が始まり半年が過ぎました。生活の変化にも慣れて、充実した学生生活を送られていることと思います。大学は自ら学び成長していく場です。勉強や部活動はもちろん、先生や先輩、同じ志を持つ友人たちとの交流やアルバイトなど一日一日の生活の中にも学びに繋がる様々な出来事があります。頭と心を柔らかくして多くのことを経験して吸収し、将来に役立ててほしいと願っています。看護職は尊い仕事で、その道に進もうと考えられた皆さんのことを素晴らしいと思います。病や怪我という人生の困難に立ち向かっている患者さんに寄り添い伴走するためにこの学生期間を十分に活用し、学び、大きく羽ばたいてください。また、自分が心身ともに健康であることがなにより大切です。食事や生活リズムを整え、生き生きと日々を過ごしてください。後援会も陰ながら皆さんの力になれるよう活動していきたいと思っています。

看護学科後援会総会報告

令和元年度の看護学科後援会総会が、6月22日(土)に開催されました。保護者、学科教職員の出席のもと、盛会のうちに総会・懇親会を終えることができました。総会での承認事項は次の通りです。

- 1. 令和元年度の後援会役員は、2年生以上の役員はそのまま持ち上がり、1年生からは新たに3名の役員が選出され、計12名が承認されました。また、会長に荒巻佐織様(3年)、副会長に中尾啓子様(3年)・柳場澄子様(2年)、監事に堀江久美様(3年)・永田博明様(2年)が承認されました。



「2人に1人が『がん』になる時代に」の パネルディスカッションに参加して

4年 **O.A・T.A**

私たちは、久留米大学×朝日新聞主催による医療フォーラム2019「2人に1人が『がん』になる時代に」に看護学科を代表して参加し、他学科の学生とともに、乳癌を罹患した経験を持つタレントの麻木久仁子さんとがんについてパネルディスカッションを行いました。

麻木さんが入院生活を送る中で、看護師からの「なんでも言っていますよ。情報を隠してどうするのですか。」という言葉に救われたという話が印象的でした。看護師は患者さんの一番近くにいる存在であり、個々の生活背景などを知ることができるからこそ、その人らしい生活を送りながらがん治療を完遂できるよう、支えていく必要があると改めて学ぶことができました。



基礎3号館カフェメニュー

基礎3号館にあるカフェメニューをご紹介します！最近、なんと700円以内のお得なランチメニューが登場しました！バーガーやドッグ、パスタ、ワンプレートで食べられるハンバーグなどがあり、全種類食べたくなってしまふ程どれも美味しいですよ！

また、軽食やスナックもお手頃価格で販売されているため、学生の私達にとっても利用しやすくなっています。是非、一度足を運んでみて下さい！



編集 後記

令和元年最初の「学科通信はなみずき54号」は3年の委員が担当し、1年生から4年生までの学科通信委員が協力して企画や編集を行い、無事に発行することができました。今年度前期を振り返り、各学年の主要な講義、実習、イベントを掲載しました。久留米大学は看護師になるための知識や技術が確実に習得できるようなカリキュラムが組まれております。是非、一読いただければ幸いです。

2019年度 学科通信委員

- 1年生 土肥 綾花 高山 水希 西嶋 真由
- 2年生 大塚 萌生 久光 茉紘 岡 奈津実
- 3年生 田中 麻優子 田島 澄麗 西川 ことみ
- 4年生 富久 奈々 田口 桃子 今村 友莉恵



オープンキャンパス

4年 **A.A・H.S**

私たちは、8月に行われた看護学科のオープンキャンパスのリーダーを務めさせていただきました。オープンキャンパスは学生主体で行う大学の一大イベントなので、始めはリーダーが務まるか不安でしたが、学生スタッフの皆さん、先生方のおかげで無事終えることができました。

当日は多くの高校生やご家族の方々が来場され、妊婦や高齢者体験や血圧測定などの体験コーナーや、卒業生の看護師さんから話を聞くなどして、楽しんでいただきました。学生スタッフも高校生に学生生活の楽しさを伝えることができたと思います。

学生スタッフ、先生方、本当にありがとうございました。オープンキャンパスに来ていただいた高校生が、1人でも多く本学を良いと思い、進学してくれると嬉しいです。



1年生

新入生歓迎会

N.S

入学して1週間後、学友会主催の新入生歓迎会がありました。そこでは、医学科や臨床検査専門学校との1年生と一緒に部活の紹介ビデオを見ました。部活の特色がわかるビデオだけでなく、生演奏やコントをしてくださる部もあり、とても和やかな雰囲気でした。その後の立食パーティーの途中で先輩方が入ってこられて、部活動の練習日程や歓迎レクリエーションの日程が書かれた紙をもらいました。私は、現在、その時に熱心に勧誘して下さった部に所属しています。入部することで知り合うことのできた先輩や同期と、たくさんの思い出を作り有意義な4年間にしたいです。

久留米大学の理念と歴史

I.N

「久留米大学の理念と歴史」の授業で一番心に残っていることは、久留米餅の様々な体験ができたことです。藍染めの体験では、ずっと揉んでいるうちに段々と色がついてとても面白かったのですが、色の濃さが場所によって異なってしまいました。でも、職人の方は綺麗に色付けされていて、私達にはできないけど、とても感心しました。また、機織(はたおり)の体験もしました。一見簡単そうに見えましたが、実際に体験してみると、複雑で、模様を揃えなければならぬので、とても難しかったです。私は、久留米餅について調べ、この貴重な体験を経てこの先もずっと久留米餅の良さを伝え、久留米餅の伝統技術を守らなければならないと思いました。



生活援助技術Iの授業を終えて

T.S



清拭の演習場面

生活援助技術Iの授業では、ベッドメイキングから体位変換、清拭や足浴、髪洗、陰部洗浄、オムツ交換、寝衣交換、車椅子の援助などの看護技術を学習し、最後は事例の患者さんに対する援助方法をグループで検討し、援助を行いました。この学習の中で患者さんを多角的に捉え、患者さんにとって最善の方法を考え、環境調整や身体的・精神的ストレスの緩和など健康を回復するための援助を行うことが重要であると感じました。今後、もっと高度な技術を学び、看護師として患者さんにより良い援助ができるように努力していききたいと思います。

部活・サークル活動(軽音)

T.N

私は軽音楽部に入りました。軽音楽部は先輩方がとても優しく、先輩と後輩の仲がとても良い部活です。私は初心者ですが、練習のときは先輩方が熱心に指導して下さいます。6月には夏ライブがあり、間近で先輩方の演奏を聞いて、曲の完成度がとても高く改めるといいと思います。また、ライブハウス内はとても盛り上がり、自然と自分も音楽に乗っていました。1年生も何人かライブに出ており、演奏する姿は同じ学年とは思えないくらい上手かったです。自分も早く先輩方みたいに上手く弾けるようになりたいので、これから一生懸命練習をし、いろんなことに積極的にチャレンジしていききたいと思います。



2年生

2年生になって

M.A

2学年に進級し、進級したことへの喜びの反面、専門科目も難易度も上がり授業についていけるか、内容は理解できるだろうかと不安になりました。また、2学年前期では解剖学実習が始まりレポートに追われる日々となりました。そのような状況の中で私は時間の使い方を学びました。私は予習復習、課題、レポートなどを要領よくやり遂げることができるタイプではなく時間がかかってしまいます。毎日の授業や課題、レポート、部活動、アルバイトに追われる日々の中で全てをやり遂げるためには講義のない時間を利用して課題に取り組み、1日のタイムスケジュールを立てて時間を有効に活用するようにしました。初めは上手くいきませんでした。少しずつ時間の使い方を身に付けることができたと思います。自分に合ったやり方、時間の使い方を身につけていく力が必要であると思いました。



解剖体慰霊祭と解剖学実習を通して

O.A・Y.S



解剖体慰霊祭では、ご献体に対して献花を行いました。約3ヶ月間の解剖学実習では、実際にご献体の血管や臓器に触ることで、1年前期の「人体の構造と機能I」の授業で漠然としていた知識が確実なものになりました。複雑な人体の構造を深く学ぶことができ、一生に一度しかない貴重な体験をさせていただきました。解剖学実習ではご献体に触れることで、「命」というものを感じながら学ぶことができました。また、私達に貴重な機会を与えて下さったご献体とそのご遺族に深く感謝し、お礼を申し上げます。

アドバイザー会

A.A

私は、6月末にアドバイザー会に参加しました。1年前、大学に入学したばかりで、学校生活に慣れるのに必死だった私は、このアドバイザー会に参加したことで、先輩の話を聞いたり相談することができ、とても助けられた記憶があります。今回は、先輩にアドバイスを頂いたり、学校のことだけでなく日常生活の相談に乗っていただいたりと、とても有意義な時間を過ごしました。また、同級生とも会話が弾み、より絆も深まりました。このアドバイザー会を通してできた、先輩・後輩・同級生、そして先生との繋がりを、これからも大切にしていきたいと思っています。



3年生

建陽大学校との交流を通して

I.Y



看護学科では、国際的視野を持った看護職者の育成と文化交流を目的に、韓国の建陽大学校看護大学との短期研修が行われており、今年も建陽大学校の学生8名を久留米大学に迎え、研修が実施されました。私は、学生ボランティアとしてこの短期研修に参加し、建陽大学校の皆さんとお互いの学校生活や看護や医療制度の違い、文化の違いについて語り合い、交流を深めることができました。また、一緒に食事や買い物をし、とても楽しく充実した時間を共に過ごすことができました。国は違いますが同じ看護を学んでいる学生と関わることのできる刺激を受けることができたと思っています。



部活動引退(剣道)

N.S

私たちは4月に行われた九州・山口医科学生体育大会で団体優勝することができました。毎回、大きな大会で優勝することは目標でしたが、これまで納得のいく結果が残せず、優勝までの道のりは険しいものでした。日々の稽古をするなかで、何度も挫折して逃げ出したい、と思うこともありましたが、その度に仲間を支えられました。苦しい時もみんなと稽古し、この人々と優勝したい、絶対負けたくないという思いが強くなり、ここまで部活を続けることができ、良い成績を残すことができました。今は私を支えてくれた友達や家族、ライバルたちに感謝し、本当に剣道部に入ってよかったと思っています。



男の会

T.K

「男の会」とは看護学科の男子学生と男性教員が集まり親睦を深めようという会です。看護学科は、他の学科と比べると男性が少ないですが、将来看護師や保健師として働くために、日々勉強を取り組んでいます。「男の会」では、定期的な食事会やレクリエーションを行っており、その中で先輩後輩の繋がりが、先生方と仲良くなれるため、学校生活で困ったことや勉強等についてアドバイスをいただくことができます。ここで築いた関係は卒業してからも続くものとなります。看護師になるための勉強はとても大変ですが、仲間と共に支え合いながら楽しい学校生活を過ごしています。



4年生

就職試験対策について

U.A

実際に就職先を決めるにあたって、3年生の早い時期から病院の説明会やインターンシップに足を運び、自分にあう病院を決めることをお勧めします。関東の病院は九州の病院と比べ早い時期に就職試験が行われます。私は早めに就職先を決めて卒業研究や国家試験の勉強に専念したいと考えたため、4月に第一志望の病院の就職試験を受けました。就職試験に向けて履歴書作成と小論文、面接の練習を行いました。始めは就職試験に向けてどう対策していけばいいのかわからず不安を感じていました。同じ病院に就職を志望する友達と一緒に春休みを利用して計画を立てながら少しずつ履歴書を仕上げ、面接練習を行い、対策を進めていくことで自信が湧いたように感じています。試験当日はとても緊張しましたが、自分の想いを伝えることができ、内定をいただけました。これからは国家試験に向けての勉強と研究を頑張りたいと思います。



総合実習

K.Y

総合実習では、3年次までの実習とは違い、複数の患者さんを受け持たせていただき、看護チームの一員として主体的に看護を実践しました。複数の患者さんを受け持つなかで、一人の患者様にかけられる時間も限られており、時間管理やケアの優先順位を考えて看護を実践することが難しかったです。その中でも自分ができることは何かを考えながら日々努力しました。管理実習では、看護師長や主任がどのように病棟の環境を整え、スタッフをまとめているのかなどを学ばせていただきました。2週間の実習を通して、病棟の看護体制、スタッフ同士や多職種との連携、医療安全、看護管理など沢山のことを学ばせていただきました。実習で学んだことをこれから看護師になって活かしていきたいと思います。



特別講義「現代人と多重役割と健康問題 -ワークファミリーバランスの観点から-」を聞いて

K.A



東北大学の吉沢豊予先生の特別講義ではキャリア形成と現代の健康問題、リプロダクティブライフプラン¹⁾の考え、コペアレンティング²⁾の促進についてとても分かりやすくお話しをいただきました。女性のキャリア形成と子育ての両立を実現させるためには、夫婦関係を基盤に母親と父親が互いに育児を支え、子供に安定した育児環境を提供するために継続して関わり協力し合うコペアレンティングの促進とリプロダクティブライフプランをしっかりと持つことが重要であることを学びました。また、吉沢先生のお話の中で、男性の妊孕性に関することや子育てに積極的な³⁾増加している一方、バタハラ³⁾、男性の産後うつといった問題が潜在していることを初めて知りました。妊娠・出産・子育てと聞くと、女性の問題だと思いがちですが、女性だけの問題ではなく、夫婦の問題として一緒に考えていくことが大切だと感じました。

- 1) リプロダクティブライフプラン: 個人やそのパートナーがお互いの将来の家族像、性と生殖に関すること、キャリアプランの影響を受けて将来子どもを持つこと、キャリア形成に関して人生の見直しを持つこと。
2) コペアレンティング: 両親が相互に育児を支え、より安定した育児環境を提供するために継続して関わり、協力して働きかけること。
3) バタハラ: 男性が育児休暇を取ること等に社会的圧力がかかること。バタニハラ: ラスメントの略。

○月×日(水) 日はなみずき委員